

(様式例 2)

平成 22 年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上に、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。		
2 評価する領域・分野	渉外		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	アンケート結果より ・学校は、保護者が授業や学校行事等を参観する機会等をよく設けている。昨年より 10% 向上しており、昨年度より多くの保護者が行事などの参観が得られたことが分かる。 ・学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。昨年より 15% 向上しており、学習環境の整備の取り組みが保護者から理解を得ていることが分かる。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	育友会員(保護者)に、学校教育活動における生徒の様子や実態について正しい認識を持ってもらい、学校行事などを通じて積極的な協力が得られるように努める。 家庭や地域での生徒の健全な育成に努める。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・校内の各分掌と連携を図りながら、全職員で組織的に運営する。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 育友会への参加を意味あるものとし、会員の出席が増加するように工夫する。 (2) 学校行事への参加の在り方を工夫し、育友会の各委員会の活動を積極的にする。 (3) 学校行事などに、育友会員にできるだけ参加していただくように工夫する。	(1)(2)(3) より多くの育友会員(保護者)に学校行事、育友会行事に参加して頂けるか。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・育友会総会時に一年間の行事が印刷されたカレンダーの配布を行い出席率の向上を図った。 ・地区懇談会(事前の打合せ、反省会を含めて)では、昨年度の反省点を踏まえて資料を見直し、より多くの出席が得られるように働きかけをした。 ・育友会による文化祭バザーにおいて、生徒の協力体制を前面にした取り組みをした。 ・教室に扇風機を設置し環境整備を行った。 ・事故発生時の適切な処置および全高 P 連賠償責任補償制度(生徒賠償責任保険、PTA 管理者賠償責任保険)の全員加入をした。	昨年度より新しい試みであったが出席率の向上には繋がらなかった。 懇談会当日だけでなく、事前の打合せや反省会にも多くの出席者が得られ、保護者からの提言や学校からの情報発信のよい機会となった。 育友会員(保護者)の多くの協力が得られた。	A B ☒ C D ☒ A B C D ☒ A B C D	

11 成 果 ・ 課 題	○ 育友会総会時に配布したカレンダーは、出席率向上には繋がらなかったが、学校への理解を深めるために継続を考えたい。 ○ 地区懇談会におては、昨年度の地区委員の方からスムーズに引継ぎが行われて、昨年度と同様の出席率が得られた。家庭と学校との連携が効率的で活発な場となり、相互理解と健全な生徒の育成に努められた。また、懇談会で話し合われた内容については、学校の関係分掌で再確認し、まとめたもので反省会を行い育友会広報誌で各家庭に配布した。 ○ 文化祭バザーにおいて、昨年度に引続き育友会と生徒が一体化した実施が定着し、生徒の感謝の気持ちと帰属意識を高めた。他に部活動激励会においても同様な成果が得られた。	総 合 評 価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 育友会総会の出席率向上のために、過去数年において学校の特色を生かして工夫をしているが、変化が少ない。さらに来年度に向けて検討したい。 学校全般で携帯メールによる広報が活発になり、育友会に関しても継続的に進めたい。		